

harappa映画館

「ドキュメンタリー最前線2019」

プレスリリース

## 開催概要

2008年より『harappa映画館』と称して、映画鑑賞の機会が限られた弘前にて、画一的ではない多様な作品を、年に3回程度、弘前市中心市街地にて上映する活動を続けております

今回は、津軽三味線の巨星・高橋竹山や現代アメリカの縮図とも言える巨大スタジアム、日本文化が残る台湾の地方都市とそれぞれを題材とした近年話題のドキュメンタリー3作を一挙上映します。全作品が弘前では初上映となります。

事業名： harappa映画館「ドキュメンタリー最前線2019」

開催日：2019年3月9日（土）

会 場： スペースデネガ（青森県弘前市上瓦ヶ町11-2）

主 催： NPO法人 harappa

※平成30年度 弘前市市民参加型まちづくり1%システム活用事業

問合せ： harappa事務局（担当：小杉）

〒036-8198 青森県弘前市元長町25 行人社2F

tel.0172-31-0195／fax.0172-31-0196

e-mail.post@harappa-h.org URL. <http://harappa-h.org/>

## タイムテーブル

10:30 『津軽のカマリ』

13:30 『ザ・ビッグハウス』

16:15 『台湾萬歳』

※上映終了後シネマトーク（ゲストスピーカー：酒井充子監督）

上映作品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

### 津軽のカマリ



(C) 2018 Koichi Onishi 監督・製作・撮影 | 大西功一 2018年 | 日本 | 上映時間/104分

20年前、津軽の十三湖を訪れた大西功一は、いつか津軽を舞台にした映画を撮ろうと思った沖縄宮古諸島の老人たちが記憶する古謡に焦点を当てた『スケッチ・オブ・ミヤーク』(12年)を経て、その思いが実現した。大西は初代高橋竹山の生涯を通して、津軽の風土を描くことを試みた。初代竹山の演奏に圧倒されながら、観客は朴訥とした彼の語りに、初代が過ごした苦難の時間を知る。さらに映画は、二代目高橋竹山を容易に受け入れない津軽の精神風土も明らかにする。

### ザ・ビッグハウス



(C) 2018 Regents of the University of Michigan 監督・製作 | 想田和弘, マーク・ノーネス, テリー・サリス

2018年 | 米国・日本 | 上映時間 119分

五輪めざして建設中の新国立競技場は、収容人数6万8千人。これに対してミシガンスタジアムは軽く10万人を呑み込んでしまう。「ビッグハウス」といわれるやうだ。ここで繰り広げられるフットボールの試合を想田和弘監督率いる17人の撮影隊があらゆる角度から撮りまくる。試合そのものはそっちのけ。チアガールもいればゲロ吐く観客、ダフ屋のおじさん。

ぜんぶひっくるめて、これがアメリカだ！という 興奮のドキュメンタリー。が過ごした苦難の時間を知る。さらに映画は、二代目高橋竹山を容易に受け入れない津軽の精神風土も明らかにする。

### 台湾萬歳



(C) 『台湾萬歳』マクザム／太秦 監督 | 酒井充子 2017年 | 日本 | 上映時間 93分

多様な民族が暮らす人口約1万5千人の町・台東縣成功鎮。この町を中心とする小宇宙で生きる5人（5組）の人々……畠仕事を日課とする元カジキ漁師の夫と妻、いまも「カジキの突きん棒漁」を営む夫婦、シンガーソングライターでもある中学校の歴史教師、高地の村から強制的に移住させられた経験を話すブヌン族のお年寄り、伝統的な狩りをいまも続ける狩人。彼らの生活を淡々と描く、酒井充子監督「台湾三部作」最終章。

◎ 上映後、酒井監督によるシネマトークあり

### ゲスト／酒井充子



山口県周南市出身。慶應義塾大学法学部政治学科卒業後、メーカー勤務ののち新聞記者となる。98年夏、1本の台湾映画を見て台湾へ行き、バス停でおじいさんに流暢な日本語で話しかけられ、日本人教師の思い出を聞いたのをきっかけに台湾への興味を深めた。監督作品に『台湾人生』（09年）、『空を拓く-建築家・郭茂林という男』（13年）、『台湾アイデンティティ』（13年）、『ふたつの祖国、ひとつの愛ーイ・ジュンソプの妻ー』（14年）、『台湾萬歳』（17年）、著書に「台湾人生」（10年、文藝春秋。18年、光文社知恵の森文庫）がある。台湾の離島を舞台にした新作を準備中。

## チケット [入替制] ·

1回券 前売1000円 当日1200円 学生・会員500円

3回券 前売2500円 (前売りのみの取扱)

### 《取扱店》

弘前中三、まちなか情報センター、弘前大学生協、コトリcafe（弘前市立百石町展示館内）

### 《チケット予約・問い合わせ》

harappaウェブサイトまたは、電話 0172-31-0195（平日 9:00～17:30）

## 読者・視聴者チケットプレゼント · · · · · · · · · · · · · · · · ·

読者・視聴者プレゼントとしまして、招待券ペアチケット2組をご用意しております。プレゼントコーナー等でご紹介いただけましたら幸いです。

ご入用の際は事務局までお申し付けください。当選者への郵送は当方からも可能です。

## 作品画像 ·

プレス用に劇場場面画像を提供いたしますので、ご入用の際は、当方ウェブサイトの該当ページ・最下部よりダウンロードいただくか、事務局までご連絡ください。